



ある診療台がたどる数奇な運命



南都留地区歯科医師会 井出公一

この度、上記のタイトル名で文章を書かせて頂くことになりました。書いているうちに、これは当方と当方の親戚の単なる自慢話じゃあないか、披露する事で嫌味に取られないとも限らない、止めようかな、でも、皆さんにこんな先達が山梨にも居たんだと知って欲しい気持ちもあって、頭の中で葛藤した結果、こちらが勝って、書かせて頂くことにしました。宜しくです。

いきなりの質問です！下記(左)写真はどこの診療所だと思いますか？間違いなく歯科の診療機械ですよ、それにしても、ずいぶんクラシックな診療台！そして100年前にタイムスリップしたような雰囲気診療室ですね！事実、機械は1920年代のアメリカ・リッター社製で、そして日本で現存するのは数機しかないと思われます。このレアな逸品が眠る場所は？？富士河口湖町です。実は我々の親戚筋になるお宅です。と、言われても分かりませんよね。ではヒントになりますか、この紳士、誰か分かります？



河口湖の湖畔に富士レークというホテル(since1934年)があるのですが、ご存知でしょうか。この写真は、このホテルの創業者の故・井出公一(たかなり)氏です。1900年生まれです。(現在社長の泰済さんの祖父になります)そして、この人物が診療台の持ち物でした。と、いうことは、普通考えると、氏が、こういった骨董品集めを趣味にしていたと考えますが、それが違うんですね！実は氏は、れっきとした歯科医師でした。それも、日米の歯科医師免許のダブルライセンスを取得したという、当時稀有なデンティストだったのです。東京歯科大学出身です。29回卒業です。そこでこの診療台は、先生がアメリカの大学で勉強して帰国の際に持ち帰ったと考えられます。

先生は最初、日本橋で開業されて後に、河口湖に戻られ、山梨県歯科医師会にも所属していました。このことは、若い先生は勿論知るよしもないと思いますし、更に我々より上の年代の先生方もご存知ない方が多いと思います。その理由は、実は同時にホテルを建てたり、更には河口湖町長の要職にも就いたりして、次第に診療から遠ざかり、最後には、歯科は休業を余儀なくされたからです。そして以降半世紀以上、診療室は、タイムカプセルのような状態のまま保たれた事になります。

さて、この診療室の場所は、実は現在の泰済社長のご自宅(井出新宅といいます)、それも二階の一室というのが正解です。では、次に当方が、今回どうしてこれに関わったのか、皆さん、不思議に思われることでしょう。

そこで、この先はどうなるのかをお話しします。

添付は、その公済ドクターのアトランタ時代のエモリー大学の卒業写真です。それに、東京日本橋で開業した診療室です。



さて、半世紀以上開かずの新宅二階の歯科診療室！今回どうして、これが日の目をみることになったかといいますと、実は、このご自宅が、この度、室内の改装をする事になって、色々処分する中、当方にこの部屋を見て欲しい依頼されました。そこで泰済社長の案内で開かずの扉が開いて、足を踏み入れた途端、この超クラシックな診療台に、いっぺんに魅了されたということです。(まさしくクラクラとです。ハハハ！)そこに泰済さんから、この診療台の有効利用を考えてほしい、更によければお譲りしたいとの言葉に有頂天になったというわけです。



ということで、写真は、ご自宅の門構えと、二階の診療室です。西日が入るような配慮がされています。さて、調査を依頼されたので、報告書を書くことになりました。

— 泰済社長様 —

この度、当院に、この診療台、お譲り頂けるとの事、そこで、当方の構想、お話しします。

まず、当院での展示は玄関口のスペースを予定しております。但し、これがずっとという訳でなくて残念です。実は半年前に、当院屋外のブレームンの音楽隊の像の作者に、このスペースに置く作品の制作の依頼をしております。そんな事で、この診療台、飾れるのも、次の作品が出来上がるまでになってしまいます。その後は大切に保管して、日の目を見るのが、いつになるか、当方の目の黒い内に実現出来ればいいのですが、その事をご承知頂いて、よろしければ、お譲りくださいませ。

公済先生の思い出のお品です。更に父、仁一も診療させて頂いた機械、後世に伝えさせて頂ければ、幸甚に存じます。宜しく申し上げます。以上です。

そんな事で当院の玄関口には、この6月から、今や日本で滅多にお目にかかることの出来ない逸品が期間限定で、展示させる事になりました。お陰様で思っていた通り、いや想像以上に素敵にバックの壁にも映えて最高です。



で、ゆっくり観察すると、どうでしょうか、目玉と両手があってロボットの様ですね。そう考えると、診療台というより、一つの愛嬌あるオブジェですね。



さて、このユニットも、8月までで次の作品と入れ替えになりました。となると、この診療台は、今度は当院の倉庫に眠ることになるのか、

それは勿体ない！そこで考えたのが、歯科大学に寄贈出来ないか、それなら、ここに置くより多くの患者さんに観て貰える。それこそ天国の公済先生にも喜んで頂けると思えました。

日本歯科大学新潟生命歯学部 医の博物館

医の博物館は、日本で初めての、また唯一の医学博物館として平成元年（1989）9月に開館しました。歴史的資料（史料）を通じて医学史を教育研究し、史料を一般...



そこで、つてを頼って『医の博物館』と接触を試みました。先般、大学から担当の教授にお越し頂き、お墨付きを頂きました。嫁入りが決まった瞬間でした。

わが国で唯一の医学博物館

本館は、日本で唯一の医学博物館です。平成元年（1989）9月に、わが国最初の公立医学博物館（新潟県新設）として開館しました。その名の通り、歴史的資料（史料）を通じて、医学史を教育研究し、あわせて史料を一般公開し、学術文化に寄与することを目的としています。現在は過去の書架ですが、私どもの、先人の努力の積み重ねの上に成り立っています。とりわけ、学術文化の世界においては、後人の仕事はあくまで先人の活動の継承であります。その意味から、歴史のない学問はありません。私どもは、先人の残した学問の遺産を大切にしたいと考えています。本館の所蔵する史料は、すべて徳富ある方々からの寄贈によるものです。江戸時代から昭和時代に至る医・歯・薬に関する史料、約5,000点が展示・保管してあります。



以上ですが、ここからは、番外編です。

今回、このご自宅の内部を改装すると、お話ししましたが、この家は築 200 年の古民家です。そんなことで、古いものが沢山あります。そこで内部の一階を写真に納めてきました。ご覧下さいませ。



さて、ここからは追伸といくことです。

お陰様で当院の玄関口にも、現在新しいオブジェが展示されました。折角ですから、この説明させて頂きます。もう少しお付き合いくださいませ。

この作品は「Fly me to the moon 私を月に連れてって」と題して、フランク・シナトラの伸びやかな声が聞こえて来そうです。副題は、月ドロボーとは、いささか物騒ですが「名月を取ってくれよと泣く子かな」という俳句もあります。動物達が力を合わせて、男の子を月に手が届くところまで連れて行く図です。

お陰様で野外のブレイメンの像と屋内にオブジェが揃いました。これにて大団円！

